

発見! 全国のほっとポイント

かかりつけ医として
地域の健康を引き受ける



埼玉県
富士見市



患者さんが訪れやすいようにと、駅から近く、建物の1階に開業。薬局が併設されており、利便性も抜群。

PROFILE

徳永内科クリニック院長

徳永 貢先生

とくながみつき 2001年埼玉医科大学医学部卒業。聖隷三方原病院、埼玉医科大学総合医療センター、上福岡総合病院、浅羽医院副院長(静岡県袋井市)などを経て、18年に徳永内科クリニックを開業。日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定医。

第一線から転じ
クリニックを開業

埼玉県富士見市の静かな住宅街に、2018年に開業した徳永内科クリニック。院長の徳永先生は、大学を卒業してから20年近く、大病院や総合病院などに在籍し、糖尿病診療の第一線で活躍してきました。同時に、14年からは実家のある静岡県袋井市で浅羽医院の副院長を兼任。当時在籍していた上福岡総合病院と浅羽医院とを行き来しながら、双方の患者さんのために奔走する多忙な生活を続けてきました。

開業した理由について徳永先生は、「医師として20年間走り続けてきたので燃え尽きそうになり、第一線から退いてのんびりやっていたころという思いがあった」と言います。実家の浅羽医院で訪問診療や看取り、老人ホームとの連携などを学ぶ中で地域医療に携わる決心をし、お父様の後を継ぐことも考えたという先生。しかし現在の地に開業したのは、お子さんとよく遊びに来ていたこの場所に特別な思い入れがあったからだといいます。



診察室には握力測定器や脂肪のサンプルなど、患者さんとのコミュニケーションで使用するグッズが充実。

「今でも浅羽医院に残してきた患者さんのことを思うと、後ろ髪を引かれる思いがあります。しかし、開業にあたって地元の様々な方に手助けいただいたり、自分を頼って来てくれる患者さんが思った以上に多かったりする中で、医師として消えかかってきた心のランタンが再び燃え出し、この地で恩返しをしたいと強く思うようになりました。来てくれる患者さんの思いに応えるため、やるからには最先端の医療を提供しよう」と日々学び続けています。

**何でも相談できる
身近なかかりつけ医として**

糖尿病は全身を診る必要があるため、様々な診療科の先生とコミュニケーションをとりながら患者さんを診てきたと

いう徳永先生。そのため、幅広い視点でオールラウンドに患者さんを診ることができそうです。

「現代の専門化・細分化し過ぎた医療の中では、患者さんはどこにかかったらよいか迷ってしまいます。そして、例えば喉の症状が出ているからとすぐ耳鼻咽喉科にかかってしまうと、他の重大疾患を見逃してしまいかもしれません。何かあったらまず診せてもらい、それから専門機関へつないでいくのが患者さんにとって最も有益だと考えています」という先生。

「かかりつけ医として地域の健康を預かる以上、何かあっても徳永先生のところに行けば大丈夫」と思っていただけのようなクリニックを目指したい」と語ってくださいました。



待合室にはお母様が描いたという絵画を展示。訪れる患者さんの心を和ませている。